Short ショートコメント ★★★★

ＪＯＩＮＴ

2020 年／日本映画
配給：イーチタイム／118 分

2021（令和 3）年 12 月 4 日鑑賞　シネ・リーブル梅田

Data　２０２１－１５１

監督：小島央大
脚本：HVMR
出演：山本一賢／キム・ジンチョル／キム・チャンバ／三井啓資／樋口想現／尚玄／ジェイ

みどころ

暴対法が施行され、ヤクザの肩身が狭くなっている昨今、“半グレ”が急増！『ＪＯＩＮＴ』と題された、今ドキの「ヤクザ映画」（？）の主人公は刑務所を出たばかりのそんな半グレだが、彼のお仕事は？

ＩＴ時代の昨今、個人情報をめぐる名簿の売買や特殊詐欺が花盛り。そこに目を付けた主人公のいかにもヤバそうな“活躍”は如何に？

アップを多用した映像に注目！逆光の中でのシュールな映像も美しい。しかし、セリフが聞き取れず、登場人物のキャラが不明瞭なため、ストーリー自体がわかりづらいのが玉にキズ。初監督、初主演の問題提起作だけにそれが残念！

――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――

◆チラシに載る本作のうたい文句は、「名簿売買、暴力団、特殊詐欺、ベンチャー投資、外国人犯罪組織、――これが現代日本の犯罪のリアルだ。」というもの。近時話題になっているヤクザ映画には、『孤狼の血』（１８年）（『シネマ４２』３３頁）、『すばらしき世界』（２１年）（(『シネマ４８』１５４頁)）、『ヤクザと家族』（２１年）（『シネマ４８』１６０頁）、『孤狼の血　LEVEL２』（２１年）（『シネマ４９』１５４頁）等があるが、本作は監督も俳優も知らない人ばかり。しかし、『キネマ旬報』１２月下旬号の「REVIEW　日本映画&外国映画」を見ると、３人の評論家が星４つ、３つ、４つと高評価しているから、こりゃ必見！

そう思ったが、何よりも俳優たちのセリフがよく聞き取れないこと、そして、登場人物たちのキャラ（立場）が分かりにくいことが本作の難点。そのため、スピーディなストーリー展開に容易についていくことができない。アップを多用した撮影や、逆光を利用したシュールな映像はお見事だが、肝心のストーリーが分からないのでは・・・？

◆高倉健や菅原文太たちのヤクザ映画は主人公のキャラが明確だった。それは、近時話題

のヤクザ映画でも同じだ。しかし、本作では、本作が俳優デビューになる山本一賢演じる半グレの主人公石神武司のキャラは、いかにも中途半端だ。ストーリー展開中、石神は何度も「ヤクザならヤクザ、カタギならカタギ。どちらかハッキリしろ！」と様々な人から言われていたが、私の思いも同じだ。

しかして、あくまで“半グレ”という彼の立場は、今の時代一体ナニ？刑務所帰りの人間に世間が冷たいことを、彼は前提として受け止めているようだが、そうかといって、名簿売買、特殊詐欺等で腕を磨き、自らを“投資家”“ベンチャー企業”と名乗るのは如何なもの・・・？

◆日本のヤクザも恐いが、昨今は韓国や中国のヤクザ（マフィア）の方がよほど恐い。すると、国籍不明のヤクザはもっと恐い・・・？暴対法の施行によって、ヤクザの“しのぎ”の業態は大きく変わったのは当然だが、そんな時代状況下、ヤクザが新たに名簿売買や特殊詐欺で稼ぐには、スマホ、パソコンを基礎とする IT 知識の習得が不可欠だ。本作では、主人公の石神も出所後、その方面の勉強をしたようだが、その方面の知識は今や、韓国、中国、あるいは国籍不明の外国人ヤクザの方が強いはずだ。そうすると、彼らとの対抗力の面で、日本のヤクザは？まして半グレは？

異色監督による異色俳優を主人公に据えた、異色のヤクザ映画としてはそれなりに面白い。しかし、セリフの聞き取りに難がある欠点は、やはり致命的だ。そのうえ、ストーリーのおさめ方も私にはイマイチだったが・・・。

２０２１（令和３）年１２月１７日記